

# 濁流から奪い返した37人

阿蘇郡南郷谷を襲った豪雨の夜、身の危険も忘れて逃げおくれた部落民をつぎつぎに安全地帯に移した役場吏員、消防団員の二つの英豪。

## 部落の危急一手に二人の英雄



▽阿蘇郡日水村中島部落藤本保さん(左)役場吏員は部落の相談と決り、部落民を避難させたが、翌日、昭和九年の大火復興には全動め、昭和九年の大火復興には全私財を投げだし中島部落の再建に努めただけに、人命に損傷を与

▽阿蘇郡日水村中島部落藤本保さん(左)役場吏員は部落の相談と決り、部落民を避難させたが、翌日、昭和九年の大火復興には全動め、昭和九年の大火復興には全私財を投げだし中島部落の再建に努めただけに、人命に損傷を与

# 三たび隈なくさがす 逃げ遅れた11名を救出

ながら流木につかり見回ると、部落の川下にある中川辰吉さん(左)が逃げ遅れて家屋内にいたのを発見、六名を屋外に出させた。けるものは自分の意につかまらざり子供を抱いて無事に高台にある

日神社に避難させ、ほつと戻付く間もなく再び濁流の中へ引返し復たを逃げた。このころから水かさは急激に増し、はじめ小柄の藤本さんは何回となく濁流に吞まれた。眼の前に屋

根上につかり漂流してゐる藤本さん(左)はか四名を見つけたが、勢いを増す濁流に救出をさきらめ付近の杉の木により登り道を天にまかせたのだつた。それから三分のちのちに減水しはじめのをみて再び水中に飛びこみ藤本さん一家を無事救出、また逃げ遅れた馬一頭をう



藤本保さん

# 独断で下す出動命令

消防団員、悲鳴聞き逃せぬ  
26名を助く

数名とともに濁流に飛び込み救出をはじめた。用意したロープを互いに体にくくりつけ老人、女、子供を順送り、背負つて高地に無事送り届けたが、またしてもその川下にある小出光義さん(十一人家族)の生命が危なまれているのを知り、救出に向つたがすでに胸までは浸り、救出区域を回つて戻上るに難儀していた後藤助義さん夫婦に助け出している。なお救出が間、か五名が濁流に吞まれたが、大津さんの必死の救助でケイ子ちゃん(三)は無事脱死からよめられ、こに大津さんの勇敢な働きで二十

生情お口